

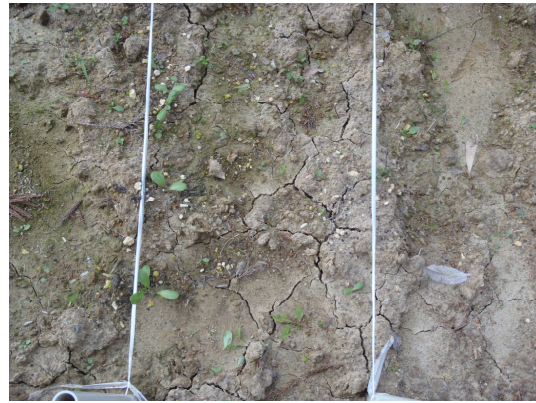
能登伝統野菜「沢野ごぼう」のゲル被覆種子

を用いた安定生産への取組

中能登農林総合事務所農業振興部



沢野ごぼうのゲル被覆種子



発芽したごぼう（左列が試験区）

能登伝統野菜である「沢野ごぼう」は、七尾市の山間部に位置する沢野地区で古くから生産されており、江戸時代には加賀藩の特色ある農産物として、将軍家や京都の寺院にも献上されてきました。沢野地区の粘土質土壌で栽培したごぼうは、通常のものより太く長くなり、肉質も非常に柔らかく、香りなどの点でも優れています。平成23年3月18日には、地域団体商標にも登録され、現在33戸の農家が約1ha栽培しています。

しかしながら、当地区の土壌は粘土質であり、土が乾燥して固まりやすく、そのことが原因でごぼうの発芽率が約1割と低い状況にありました。このため、当事務所では、平成22年度から、天然高分子ゼリーと呼ばれるゲルで種子を包み込んだ「ゲル被覆種子」を用いて、発芽率向上試験を行っています。ゲルには多くの水分が含まれており、ごぼうの硬い種皮をふやかし、発芽しやすくする効果があると考え、試験を行いました。昨年度の試験では、発芽率が約6割にまで向上しました。

今年度は、さらなる発芽率の向上を目指し、ゲル内で種子を発芽させてから播種を行う試験を行っています。

今後は、生産者に対して、講習会やセミナー等を開催し、ゲル被覆種子を用いた安定生産技術の普及を図ると同時に、様々なイベントでPRを行い、沢野ごぼう茶等の加工品の生産・販売を推進し、産地の活性化を支援していきたいと思えます。

問い合わせ先：中能登農林総合事務所農業振興部（0767-52-5522）